

郷土室だより

『中央区沿革図集』

〔月島篇〕 発行迫る！

中央区の地図集

はじめから『中央区

沿革図集』と、ちよっと堅苦しいようなタイトルを掲げましたが、中味は中央区を中心にした地域の、江戸時代から現在までの地図集のことです。

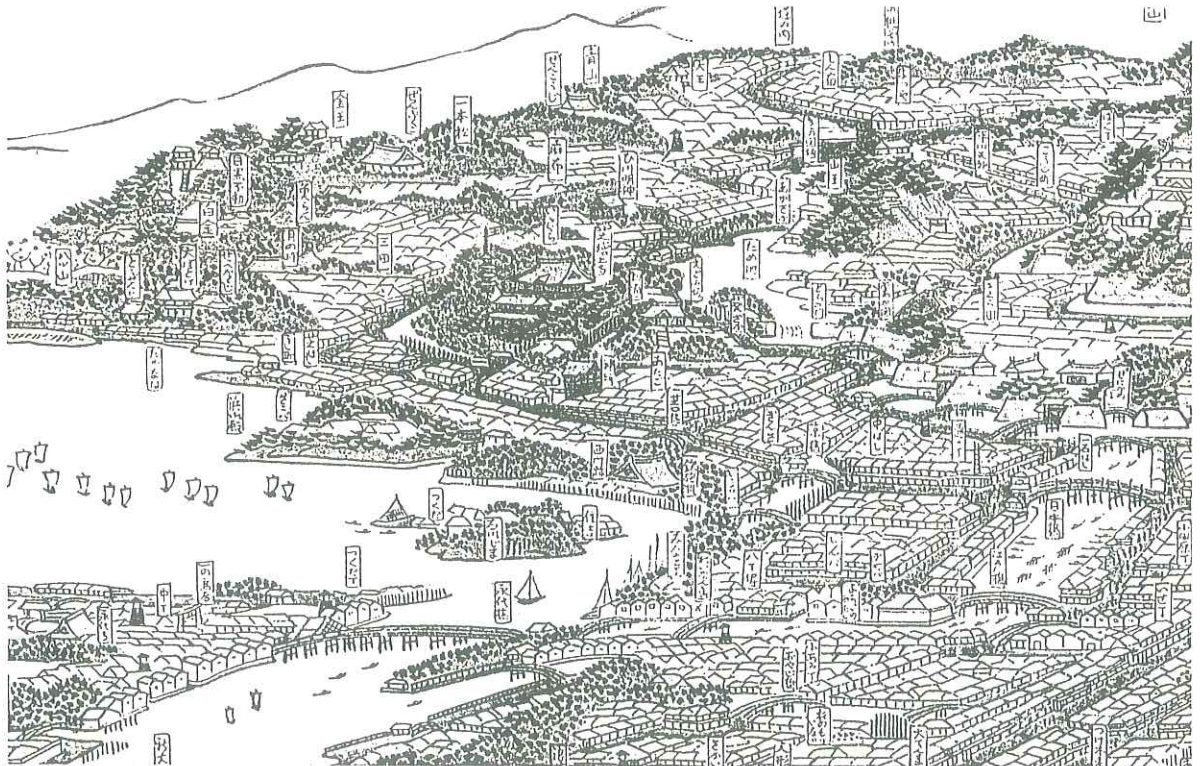
この地図集は中央区教育委員会の計画で、全体の構成は区内を三地区にわけ、各地区ごとにつぎの順に発行される予定です。

平成五年度 〔月島篇〕

平成六年度 〔日本橋篇〕

平成七年度 〔京橋篇〕

そして、その第一弾として来る三月二十三日には〔月島篇〕が発行されるは



江戸一覽圖 弘化4年(1847) 二代目一宝斎国盛画

こびになりました。なお編集の都合から、このような三分冊にしましたが、あくまで三冊全体で中央区の範囲の移りかわりを明らかにすることを、目指しています。

体裁と内容

B4判——つまり週刊誌をひろげた大きさです。「月島篇」の場合、つぎの掲載図の一覧のように、地図だけではなく海図、鳥瞰図、絵巻物も入るといふにぎやかさです。

原図が彩色されているものは、その通りに再現しましたし、無彩色の地図には海や川に色をつけて見やすくしたり、文字が楷書ではない場合は、読めるように工夫をしました。

「地図は見るものではなく、読むもの」だという言葉がありますが、その言葉のように「読めて」、見て、楽しめる地図集を目指しました。

〔月島篇〕の内容

つぎの一覧表のよ

うに、二十二の分野ごとに多くの地図や絵を集めました。地図の名称などについては、各図ごとに説明をつけ、さらにまとめて解説が必要な事柄については、巻末の「解説の部」で取りあげています。

この「解説の部」で重点を置いたことは、「見えかくれする洲」だった石川島・佃島が、どのような条件と社会的理由によって、現在の「月島地区」を形成するようになったかを、東京湾の埋立事業との関係で明らかにすることでした。

それは江戸・東京四百年の歩みの中で、初めて意識的に工業地帯が計画され、それにもなって工場労働者のすまいⅡ住宅、とくに東京最初の市営住宅が建設された、新天地〔月島地区〕の「意味」を明らかにすることでもありました。

第二は江戸・東京の海の玄関口であった〔月島地区〕の移り変わりを、できるだけ多角的に再確認するための、資料を集めることでした。

佃島の砲台、占領下の月島など、これまであまり取り上げられなかったことを、紹介しました。

前おきが長くなりましたが、つぎが図と絵の一覧表です。

〔月島篇〕掲載図・絵一覧

口絵 佃島沽券絵図（金子為雄家所蔵）

① 石川島・佃島のかたち

寛永時代（一六三二）から昭和までの地図十五図で、その移り変わりをわかりやすく並べたものです。

② 江戸方角安見図鑑の中の石川島・佃島

③ 御府内沿革図書での石川島・佃

島索引とも六図

- ④ 改訂「江戸之下町復元図」
 1 石川島・佃島とその対岸図
 2 人足寄場図
- ⑤ 大区小区時代の佃島沽券図
 1 明治六年 第一大区十小区の内の佃島
- 2 佃島拡大図
- 3 明治九年「東京全図」
- ⑥ 明治十七年 参謀本部陸軍部測量局 東京五千分一図
 1 附 内務省地理局「東京実測図」
- ⑦ 明治二十八年 東京郵便電信局 東京区分図の内の月島
- ⑧ 大正元年 「京橋区地籍地図」の内の月島分。索引図とも九図
- ⑨ 大正十年「月島調査社会地図」二十九図
- ⑩ 大正十二年「関東大震災火流図」
- ⑪ 昭和六年「晴海」埋立図
- ⑫ 昭和七、十一年「火保図」十三図
- ⑬ 記憶の中の月島 十一図
- ⑭ 戦争と中央区
 1 東京都戦災図（地図A）
 2 昭和二十年一月二十七日、京橋地区空襲被害図
- 3 占領下の中央区
- ⑮ 昭和二十年代の「火保図」索引とも十二図
- ⑯ 昭和三十七年頃の月島地区
 1 東京地形図 2 昭和三十八年の航空写真
- ⑰ 住居表示実施図
- ⑱ 海から見た月島地区（水路部の海図）
 1 明治五年「武蔵国東京海湾図」
 2 大正八年「日本東京海湾 隅田川口附近」
- 3 昭和三年「日本東京海湾 東京港」
- ⑲ 昭和三十三年「日本東京海湾 京浜港」
 4 昭和三十三年「日本東京海湾 月島よろず地図（人足寄場から「モンジャ」までと、月島人国記など）八図
- ⑳ 中央区現状図
 1 平成四年版東京地形図
 2 平成四年の航空写真
- ㉑ 鳥瞰図で見た月島
 江戸期二図、明治期二図、大正期二図、昭和期一図
- ㉒ 月島西仲通り絵巻 小川幸治画
- この図のあとに「解説の部」として、十三章にわけて、地図そのものについての解説や、地図に示された事柄の背景などを取り上げています（各章の名称などは省略）。
- そして最後は「月島年表」という構成のものです。

記憶の中の月島

本当でしたら、もっと始めの所で「特筆大書」しなければならぬのが、前の一覧の中にある¹²「記憶の中の月島」です。

これはかつて月島に在住された方、現在も引き続きお住いの方々の、戦前¹³の記憶をまとめたものです。

事の起りは平成四年秋に、月島地区のみなさんによって、月島築島百周年を記念する多彩な行事が行なわれました。その時、地元の月島図書館でも、築島百年記念の講演会や資料展示会を開きました。

その展示場の一面に、これも前に見た¹²「昭和七^〇十一年 火保図」（火保図のくわしい説明は、ここでは略します。現在の「住宅地図」だと思っ下さい）をひろげ、その図の空白に當時を知る方々の思い出を書き込んでいただいたのです。

むかし月島で暮された方々、昔から

引き続いておすまいの方などの非常に多くの方々の興味と関心をひいたこのコーナーは、思い出を書き込む人、それに見入る人で、いつもいっぱいでした。——その結果を整理して作ったのが、¹³「記憶の中の月島」図なのです。

このような「住民参加」で出来た地図が、掲載できたということは、「月島地区」に縁のある方々の、月島への熱い愛着のあらわれです。そしてこれはこの「月島篇」の最大の特徴だともいえることです。

改めてご協力下さった大勢の方々に、ここでお礼を申し上げます。

編集作業

区立図書館の仕事としては異例の『沿革図集』づくりは、この『郷土室だより』の発信者でもある京橋図書館郷土資料室の事業としてスタートしました。そのため図書館に調

査員をおき、郷土資料室をはじめ月島

・日本橋図書館の郷土資料担当職員をまじえたスタッフで作業をしてきました。

「月島篇」の目鼻がついて、ホッと一息する間もなく、「日本橋篇」の編集に取りかかっている最近です。

お知らせ

『中央区沿革図集』〔月島篇〕は、三月二十三日からご希望の方に一冊、七千円でお分けします。

中央区役所一階の公文書公開コーナー、京橋図書館、日本橋図書館、そして月島図書館の四か所で取り扱います。ただし、日本橋図書館では新館オープンの五月十七日からとなりますのでご注意ください。